

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
---------	-----------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	特別支援教育課長 三島 賢隆	電話番号	0852-22-5420
----------	----------------	------	--------------

事務事業の名称	特別支援教育就学奨励費		
目的	(1) 対象	特別支援学校に在籍する幼児・児童・生徒	
	(2) 意図	保護者の経済的負担が軽減され、児童生徒等の学校教育を受ける権利が保障される。	
事業概要	「特別支援学校への就学奨励に関する法律」に基づき、特別支援学校への児童生徒の就学による保護者等の経済的負担を軽減するため、負担能力の程度に応じて（Ⅰ～Ⅲの区分分け）、通学費、学校給食費等必要な経費を補助する。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	就学奨励費支給率	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		100.00	100.00	100.00	100.00	
式・定義	就学奨励費の支給要件を満たす者への支給率		実績値	100.00	100.00	100.00	100.00		%
			達成率		100.00	100.00	100.00		%
指標名	式・定義		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	171,128	192,359
うち一般財源(千円)	98,910	105,878

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

目標値に対して実績値100%を達成している。支給事務を行う特別支援学校と連携を取り、特別支援学校に就学する児童生徒への経済的支援を実施している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

実績値100%達成できており、支給事務についても各特別支援学校と連絡調整しながら適正に実施できた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 対象者数の増加による支給事務量の増加。
- 支給対象項目に対する事例が複雑化し、判断が困難。

②困っている状況が発生している「原因」

- 特別支援学校在籍者数の増加。
- 生活環境等の多様化。

③原因を解消するための「課題」

- 支給対象者数の増加の解消は困難。
- 支給の可否に対する判断。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 担当者との意見交換会等をおして事務処理状況や要望等を把握し、必要に応じて事務処理方法を検討する。
- 支給判断が困難なものについて、速やかに文部科学省の見解を確認し、事例について各特別支援学校との情報共有を図る。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状」→「6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状」→「7. まだ残っている課題」→「8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）